

研究プロジェクト

「宗教が文化と社会に及ぼす生命力についての研究－禅をケーススタディとして－」

Research Project: Vitality of Religion that Activates Culture and Society

－Zen as a Case Study－

実施期間： 2010～2012 年度（第 1 年次）Term of the Project: 2010-2012 fiscal years (1st year)研究代表者： 天野 文雄 国際高等研究所副所長Project Leader: Dr. Fumio AMANO, Member of the IIAS Planning Board;
Professor Emeritus, Osaka University研究目的：

①背景：

研究代表者は能楽(能と狂言)の歴史的研究や演劇的研究を専門として、長年、能楽の研究に携わってきたが、その過程で、能の大成者たる世阿弥の制作になる能やその能楽論に禅が深いレベルで影響を及ぼしていることを知り、さらに、そのような現象が世阿弥や能だけではなく、絵画、書、彫刻等の美術、和歌、連歌、漢詩等の文学、茶等の芸能、作庭、建物等の建築といった芸術諸分野、らには思想、政治、欧米の現代をも含めた社会生活にも認められることに想到して、禅の持つ「芸術や社会を触発する力(本研究では「生命力」と呼ぶ)について、その諸相を究明する必要性を痛感するにいたった。

②必要性：

細分化が加速度的に進行している現代の人文研究にあって、最も求められているものといえば、たとえば「何のための研究か」という巨視的な視点からの問いかけがあろう。本研究が解明しようとしているような禅の持つ力については、上記の各分野においても多かれ少なかれ考究されてはいるが、それには巨視的な視野がなく、ために上記各分野の禅にかかわる研究においては、ある常識的な理解に安住する結果になっているのではないかと思われ。そのような状況が本研究によって変えられることによって、上記各分野の研究が思想というレベルで深められることが期待される。

③方針：

本研究では、上記の人文・社会学諸分野における「禅の生命力」の実態を整理・総括して、それを各分野における共通認識とすることを目標とする。そのためには、上記各分野の第一線で活躍している研究者による、当該分野における最先端の報告が不可欠となる。

Objectives:

- ① Background: As a scholar of No-gaku (Noh and Kyogen), I have been taking a historical and theatrical approach in my research. In the process, I have realized that Zen philosophy profoundly influences Noh (which was established by Zeami) and its theory. Furthermore, the influence of Zen can be found not only on Zeami and Noh, but also on the fine arts (painting, calligraphy, and sculpture), literature (Japanese poetry such as waka and renka, and Chinese poetry), the performing arts (tea ceremony), architecture (gardening and building), philosophy, politics, and social life including a contemporary western life. Consequently, I have fully realized the necessity to analyze the power of Zen (in this research, I call this power “vitality”)

that stimulates arts and society.

- ② Necessity of this Research: Since contemporary research on humanities has been ramified rapidly, the most essential issue, for instance, is to realize the objective of the research from a macroscopic point of view. The power of Zen, which this research will unravel, has been already analyzed in each field that I mentioned above. However, the proceeding studies did not include macroscopic views. As a result, these previous research remain in common understanding of Zen. By challenging this present condition, I expect to broaden the research of the fields mentioned above on the philosophical level.
- ③ Approach: The aim of this research is to organize and summarize the nature of “the vitality of Zen” in each field of humanities and sociology, and to share common understanding of Zen. For this purpose, it is inevitable to gain pioneering research on the concerned fields.

キーワード : 禅、生命力、世阿弥

Key Word: Zen, Vitality, Zeami

参加研究者リスト : 17名 (◎研究代表者)

氏名	職名等
◎天野 文雄	国際高等研究所副所長
荒木 浩	国際日本文化研究センター研究部教授
飯塚 大展	駒澤大学仏教学部教授
クリスティアン ウィッテルン	京都大学人文科学研究所准教授
大田 壮一郎	龍谷大学文学部非常勤講師
太田 亨	愛媛大学教育学部准教授
川本 慎自	東京大学史料編纂所特殊資料部門助教
恋田 知子	国文学研究資料館機関研究員
神津 朝夫	帝塚山大学人文学部非常勤講師
重田 みち	早稲田大学演劇博物館客員研究員
鈴木 元	熊本県立大学文学部教授
中本 大	立命館大学文学部教授
西平 直	京都大学大学院教育学研究科教授
西山 美香	花園大学文学部非常勤講師
野村 俊一	東北大学大学院工学研究科助教
原田 正俊	関西大学文学部教授
福島 恒徳	花園大学文学部教授

2010年度研究活動予定 :

①研究会開催予定 :

第1回 : 2010年9月3日~9月4日 (於 高等研)

第2回 : 2010年12月17日~12月18日 (於 高等研)

②話題提供予定者 :

今泉淑夫・東京大学・名誉教授(禅宗史)

岡雅彦・国文学研究資料館・名誉教授(日本近世文学)

桜井英治・東京大学大学院文学研究科・教授(日本中世史)

竹貫元勝・花園大学文学部・教授(日本禅宗史)
熊倉功夫・林原美術館・館長(茶道研究)
平雅行・大阪大学大学院文学研究科・教授(日本中世史)
蔭木英雄・関西大学・名誉教授(日本中世文学)
島尾新・多摩美術大学美術学部・教授(日本美術史)
末木文美士・国際日本文化研究センター・教授(仏教学)

2010年度については、上記リストから3名ないし4名を予定。

研究成果報告書の出版：

2014年2月出版予定

担当：川北副所長

国際高等研究所 研究プロジェクト
「宗教が文化と社会に及ぼす生命力についての研究－禅をケーススタディとして－」
2010年度第1回研究会 プログラム

開催日時：2010年 9月3日（金） 13：00～17：00
9月4日（土） 9：30～16：00

開催場所：国際高等研究所 216号室（2F）

研究代表者：天野 文雄 国際高等研究所企画委員／大阪大学名誉教授
担当所長・副所長：川北 稔 副所長

出席者：（15人）

研究代表者	** 天野 文雄	国際高等研究所企画委員／大阪大学名誉教授
参加研究者	荒木 浩	国際日本文化研究センター研究部教授
（13人）	大田 壮一郎	龍谷大学文学部非常勤講師
	太田 亨	愛媛大学教育学部准教授
	川本 慎自	東京大学史料編纂所特殊資料部門助教
	** 恋田 知子	国文学研究資料館機関研究員
	重田 みち	早稲田大学演劇博物館客員研究員
	鈴木 元	熊本県立大学文学部教授
	中本 大	立命館大学文学部教授
	** 西平 直	京都大学大学院教育学研究科教授
	** 西山 美香	花園大学文学部非常勤講師
	** 野村 俊一	東北大学大学院工学研究科助教
	** 原田 正俊	関西大学文学部教授
	福島 恒徳	花園大学文学部教授

**：スピーカー

話題提供者 今泉 淑夫 東京大学名誉教授
（ゲストスピーカー）
（1人）

プログラム

9月3日(金)

13:00～17:00

1. 研究プロジェクトの趣旨(天野文雄)
2. メンバー自己紹介(全員)
3. 報告(1) 「能と禅についての研究概観」(天野文雄)
4. ゲスト基調講演「室町文化における禅に関する少考」(今泉淑夫)

9月4日(土)

9:30～16:00

1. 報告(2) 「日本禅宗と舍利」(西山美香)
2. 報告(3) 「室町殿の室礼と禅宗文化」(原田正俊)

—昼食—

3. 報告(4) 「禅宗の仮名法語と物語草子」(恋田知子)
4. 報告(5) 「鎌倉初期禅院建築の意匠と社会」(野村俊一)
5. 報告(6) 「世阿弥『伝書』における稽古について—禅哲学との関係から」(西平 直)

※ 報告は1本60分(報告30分、質疑30分)、基調講演は80分(講演50分、質疑30分)

※ 今回の報告は、基本的に最新の報告ではなく、本テーマにかかわる各分野の研究状況(研究史)をお話しいたします。

国際高等研究所 研究プロジェクト
「宗教が文化と社会に及ぼす生命力についての研究－禅をケーススタディとして－」
2010年度第2回研究会 プログラム

開催日時：2010年 12月17日（金） 13：00～17：00
12月18日（土） 9：00～16：00

開催場所：国際高等研究所 216号室（2F）

研究代表者：天野 文雄 国際高等研究所副所長
担当所長・副所長：天野 文雄 副所長

出席者：(21人)

研究代表者	天野 文雄	国際高等研究所副所長
参加研究者 (19人)	** 荒木 浩	国際日本文化研究センター研究部教授
	飯塚 大展	駒澤大学仏教学部教授
	クリスティアン ウィッテルン	京都大学人文科学研究所准教授
**	大田 壮一郎	龍谷大学文学部非常勤講師
**	太田 亨	愛媛大学教育学部准教授
**	川本 慎自	東京大学史料編纂所特殊資料部門助教
	恋田 知子	国文学研究資料館機関研究員
**	神津 朝夫	帝塚山大学人文学部非常勤講師
**	重田 みち	早稲田大学演劇博物館客員研究員
**	鈴木 元	熊本県立大学文学部教授
**	中本 大	立命館大学文学部教授
	西平 直	京都大学大学院教育学研究科教授
	西山 美香	花園大学文学部非常勤講師
	野村 俊一	東北大学大学院工学研究科助教
	原田 正俊	関西大学文学部教授
**	福島 恒徳	花園大学文学部教授
	大谷 節子	神戸女子大学（能楽研究）教授
	尾本 頼彦	親愛女学院大学（能楽研究）講師
	ボイカ エリット ツィゴヴァ	聖クリメント・オフリドスキソフィア大学教授／ 国際日本文化研究センター客員外国人研究員

**：スピーカー

話題提供者 末木 文美士 国際日本文化研究所センター教授
(ゲストスピーカー)
(1人)

プログラム

12月17日(金)

13:00～17:00

1. ゲスト講演 末木 文美士氏「中世禅への視座—栄西を中心として—」
(講演 60分+質疑応答 30分)
2. 報告① 太田 亨「日本中世禅林における杜甫と禅—虎関師錬の詩話に着目して—」
(講演 30分+質疑応答 30分)
3. 報告② 川本 慎自「中世禅林の経済活動とその知識をめぐって」
(講演 30分+質疑応答 30分)
4. 報告③ 荒木 浩「『徒然草』『沙石集』をめぐる禅宗的環境」
(講演 30分+質疑応答 30分)

18:00～ 懇談会 (於、けいはんなプラザホテル『ラ・セーヌ』)

12月18日(土)

9:00～16:00

1. 報告④ 福島 恒徳「頂相と詩画軸—宗教としての禅、文人としての禅僧—」
(講演 30分+質疑応答 30分)
2. 報告⑤ 大田 壮一郎「中世武家政権と宗教」
(講演 30分+質疑応答 30分)
3. 報告⑥ 鈴木 元「禅林と和歌・連歌の接点をめぐる幾つかの問題」
(講演 30分+質疑応答 30分)

【12:00～13:00 休憩】

4. 報告⑦ 神津 朝夫「茶道史における禅の位置づけとその問題点」
(講演 30分+質疑応答 30分)
5. 報告⑧ 重田 みち「世阿弥と臨済宗—香西精「世阿弥の禅的教養」再検—」
(講演 30分+質疑応答 30分)
6. 報告⑨ 中本 大「五山文学研究の現在」
(講演 30分+質疑応答 30分)